

<b>福祉マネジメント</b>		<b>今村 浩司</b>		
-----------------	--	--------------	--	--

配当年次	2年次	配当学期	1学期	科目区分	エグゼクティブ
単位数	2単位	必修・選択	選択	授業形態	講義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	福祉マネジメントに関連する専門的知識とマネジメントツールを習得する。
技能	分析解決技能	○	福祉の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	福祉の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして福祉マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

福祉マネジメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

### 授業の概要

社会福祉の領域では、現代社会の変遷とともに、より高度で多様化したサービスの提供が求められるようになってきた。それに応えるためには、安定的かつ効率的な組織運営、経営管理を担うマネジメント能力が必要である。さらには、福祉サービスを必要とする利用者に対して、直接的な援助活動はもとより、福祉事業の経営管理、福祉施策・制度についての知識も必要不可欠である。

そこで本講義では、社会福祉サービスの提供の実態を把握した上で、マネジメントの対象である人、専門職、組織等を中心に、社会福祉サービスにおける問題を多面的視点から捉え、分析できるための基本的な知識を習得することを目標に進めていく。

授業の方法論として、受け身的な講義中心ではなく、院生が主体となって展開できるよう参加型講義を心掛ける。

### 教科書

特に指定なし。適宜、資料を配布する。

### 参考書

「IPWを学ぶ ～利用者中心の保健医療福祉の連携～」埼玉県立大学編 中央法規 2009

「多職種連携の技術（アート） 地域生活支援のための理論と実践」野中猛著 中央法規 2014 等

### 授業計画・内容

- ①イントロダクション
- ②現代社会と社会福祉
- ③社会福祉の現状
- ④社会福祉の目標
- ⑤社会福祉サービスの実際（1）（福祉活動実践家をゲストスピーカーとして招聘予定）
- ⑥社会福祉サービスの実際（2）
- ⑦社会福祉サービスの実際（3）（福祉活動実践家をゲストスピーカーとして招聘予定）
- ⑧社会福祉サービスの実際（4）
- ⑨福祉領域におけるリーダーシップ
- ⑩福祉領域におけるリスクマネジメント
- ⑪福祉領域の探求①（院生のプレゼンテーション）
- ⑫福祉領域の探求②（院生のプレゼンテーション）
- ⑬福祉領域の探求③（院生のプレゼンテーション）
- ⑭福祉領域の探求④（院生のプレゼンテーション）
- ⑮福祉マネジメントの課題と展望（総まとめ）

上記は計画であり、講義の進捗状況によっては変更の場合もある。

### 成績評価の方法

福祉領域を探求するプレゼンテーション50%、講義に対する参加度と貢献度50%以上を目安として総合的に成績評価する。

### 事前・事後学習の内容

毎回講義終了時に、当日の事後学習と次回の事前学習の内容を指示するので注意しておくこと。

履修上の注意	高齢者、障害者、児童等の社会福祉領域をとりまく社会問題についての状況を把握し、問題意識を高めておくこと。
担当者からのメッセージ	本領域の主体的な学びを促すため、テーマを与え全員にプレゼンテーションを課す。実践的内容を理解するため、福祉実践活動家をゲストスピーカーに招く。
キーワード	福祉マネジメント、福祉ビジネス、地域社会、社会問題、組織運営、経営管理